



機能性組み紐ロープを利用した製品を開発

機能性組み紐ロープ製品の特性を活かし「バイオコード、モールコード、アプラス、ループコード、各種レアメタル吸着用モールコード、放射性物質吸着製品」を開発。河川浄化や排水処理、濁水処理、レアメタル等の希少金属回収、藻場再生、海洋の生態系の回復・保全、水質浄化、空気清浄、放射性物質の除去等を可能としている。

業況等の動向について

本業の動向について

組み紐製品・ロープ製品の製造。魚網の製造で創業以来、現在まで作り続けている。更に、農業用やインテリア用、レジャー用、スポーツ用、身装用、環境関連用、土木建設用、他、多方面の組み紐ロープ製品を製造している。

業況的には、増収増益が出来ている点でやや好調といえる。多品種少量生産という生産体制も良い点である。

異業種参入事業の概要

循環型社会の構築、環境改善を目指し、機能性組み紐ロープ製品の製造、現在の売上構成比は70.0%である。

主な扱い品目は、バイオコード。モールコード。アプラス。ループコード。各種レアメタル吸着用モールコード。放射性物質吸着製品(販売のめどは立っていない)。

震災復興需要もあり、業況的には比較的好調である。

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

水産用製品一本では厳しくなってきた。
 大手企業の下請けでは経営が安定しない。
 自社商品ならば、自分で値段をつけて販売できる。

マーケティングについて

市場のニーズに合わせた製品か、人の為に役に立てる製品であるかを調査した。

参入に際しての投資について

社員教育に対して継続投資をして4年間で3,000万円を投資。会社を上げてマルチ人間を育成。営業部員と研究部員を企画開発から営業まで行えるようにした。

参入して最も成果のあがったこと

継続でき、未来に向けての希望が持てた。フロンティア精神で喜ばれるような新規開発製品ができた。

参入して最も困難だったこと

開発要員の人材を育てあげるのが難しかった。

参入に際して活用した自社の技術ノウハウについて

組み紐ロープに特殊加工を施し、特定の物質を付着さ

せるもの。合成繊維できており、管理が楽なのが特徴。特殊加工を施し、河川浄化や排水処理、濁水処理、レアメタルなどの希少金属回収、藻場再生、海洋の生態系の回復、保全も出来、水質浄化や空気清浄、また、放射性物質の除去も出来る。

今後の展望・見通し

宇宙・地球・人類に貢献することをスローガンに、市場のニーズに応える製品の開発、製造を行うこと。

日本近海の海洋資源採取に自社製品を役立てる。

メリット・デメリット

メリットとしては、新規開拓をすることで、弱くなった部分を補え、更に新製品の開発や新規の展開に繋がり、企業として生き延びられた。

反面、人材育成の面では苦労が多かった。

異業種参入時のアドバイス

優秀な人材の確保、適材適所への配置。行動力のある人間がいること。人材を支える人間がいること。自らがそうであること。将来性のある業種に展開する。様々な業種に入っておくこと。裾野を広くし、最先端の分野を選ぶこと。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

愛知中小企業応援ファンド

科学技術振興財団(JST)の平成 21 年度「地球ニーズ即応型」採尺、他多数。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

愛知中小企業応援ファンドの拡大。新規開拓や展示会など PR の場作り、新商品の PR の製品案内のカタログ製作、新規開拓を行いやすい環境作りなど。人脈作り、拡大、信用力が出来るように人材による応援、など。

会社概要

設立:昭和 35 年 6 月

資本金:3,000 万円

従業員数:30 名

URL: <http://www.tbrjp.co.jp>